



Oliver Zahn 『IN PRAISE OF FORGETTING』 ©Nicole Wytyczak

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス ヴিজティング・フェローによるトーク

Imagining Disaster——災害を想像する

2026 年 2 月 5 日(木) 19:00-20:30 / 森下スタジオ(江東区森下 3-5-6) / 参加費無料

ドイツを拠点に活動する演劇作家、パフォーマーのオリバー・ツァーン氏によるトーク。

氏はこれまで、ナショナリズム、身体化された知、政治的記憶などを扱いながら、舞台作品を創作してきました。当日は、「ヒトラー式敬礼」の身振りの文化史を扱った『SITUATION WITH OUTSTRETCHED ARM』(2015 年)や、社会を前進させるための営みとしての「忘却」をテーマにした『IN PRAISE OF FORGETTING』(2019 年)、そして衛生に関する社会的・医学的言説を、過剰な手洗いなどの「強迫的な儀式」を通じて捉える『PURITY』(2024 年)などの代表的な作品について紹介する予定です。あわせて、身体・フィールドワーク・歴史研究を通じて「パフォーマンス・エッセイ」を立ち上げる、独自のリサーチ手法についても共有します。

今回の日本での氏のリサーチテーマは「防災」。自然の力や景観が人類の歴史や社会に与える影響を扱う一連の新作に向けた、出発点となる予定です。制御不能な出来事に対し、人間は具体的にどう反応するのか——最悪のシナリオを概念化することから、綿密なリハーサルを通じて「備え」の感覚を作り出すことまで——。そうした人間の営みに焦点を当てることで、人間以上の存在(more-than-human)を可視化し、向き合っていくための視座を提案します。

■ 申込方法: 以下の Google フォームからお申し込みください。(定員 15 名)

Google Form: <https://forms.gle/EBzehMkoRynQKSbT7>

後日、アーカイブ映像を限定公開で配信いたしますので、ご希望の方は上記のフォームからお申し込みください。

■ 滞在内容やプロフィール: 以下のリンクをご参照ください。

https://www.saison.or.jp/vf2025_oliverzahn



参加申込

登壇者プロフィール／Profile



©Gedvile Tamosiunaite

オリバー・ツアーン／Oliver Zahn (ドイツ)

演劇作家、パフォーマー。

これまでの作品に、『SITUATION WITH OUTSTRETCHED ARM』(2015 年)、『IN PRAISE OF FORGETTING』(2019 年)、『PURITY』(2024 年)など。

Tanzplattform Deutschland、steirischer herbst、IMPULSE といったドイツ語圏で有数のフェスティバルや、HAU(ベルリン)、ムーゾントウム(フランクフルト)、ミュンヘン・カンマーシュピーレなどの主要劇場で上演を重ねている。

その活動はドイツ国内にとどまらず、ベルギー、オランダ、英国、フランスなどの欧州各国から、チュニジア、ヨルダン川西岸、インドに至るまで、国際的にも上演をおこなっている。

2022 年にはヴィラ鴨川(京都)に滞在し、霊山観音像と耳塚についてリサーチを行った。

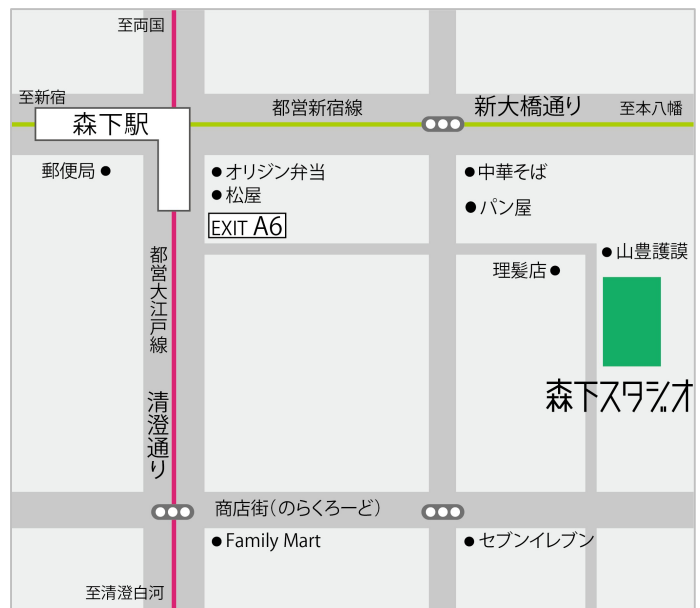


上 カール・ジョスリン(1842~1904)作「バーゼル地震」(1356 年発生)
下 Oliver Zahn 『SITUATION WITH OUTSTRETCHED ARM』
(BE Festival 2016 @ Birmingham Rep) ©Alex Brenner

■森下スタジオへのアクセス

地下鉄都営新宿線 都営大江戸線「森下駅」A6 出口徒歩 5 分

東京外口半蔵門線 都営大江戸線「清澄白河駅」A2 出口徒歩 10 分



■セゾン・アーティスト・イン・レジデンス

セゾン文化財団では 1994 年から東京・江東区の森下スタジオを拠点に滞在型の芸術創造支援や日本の芸術文化の研究支援プログラムを支援しています。2011 年から 2015 年に「レジデンス・イン・森下スタジオ」を実施。その成果を踏まえ、2016 年から海外の芸術家や芸術団体等との双方向の国際文化交流の活性化を目的とする「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス」を実施しています。